

マテリアリティ

マクセルは「企業価値」向上のため、経営の重要課題(マテリアリティ)の特定をしました。

マテリアリティの特定の背景

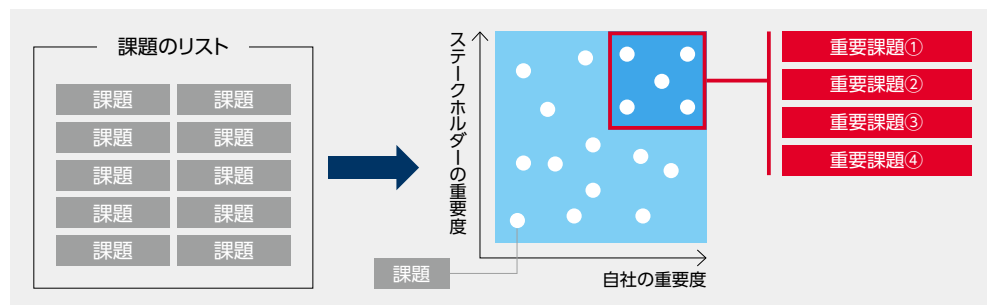
マクセルはマテリアリティを自社に関わる「徹底した価値追求のための重要課題」と位置付けています。持続的な価値創造を実現していくにあたり、不確実な時代におけるリスクと機会を見据えて、それに対応したマテリアリティを特定し、経営品質の向上を通じて、社会価値・環境価値・経済価値のトリプルボトムラインの向上につなげていきます。

2020年度にマクセルは経営指針をMVVSSとして体系化し、さらにコーポレートサステナビリティビジョンを描きました。そして、これらを実現するために、2021年度にマテリアリティ(重要課題)を特定し、今後継続的なステークホルダーとの対話を図り、具体的な成果につなげていきます。

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティの特定にあたっては、SDGs、ISO26001、GRI、MSCI、SASB等に代表される国際的なガイドラインから自社が関わる社会課題33項目を抽出しました。そこからマクセルにとって経営の重要課題として、社内及び社外のステークホルダーからの意見も取り入れ、経営幹部が数回にわたる討議を重ね、7つのマテリアリティと20のアクションプランを特定しました。

2021年8月、取締役会で承認され、社内の合意形成を得ました。



STEP 1

社会課題の抽出と
自社の方向性を認識

グローバルな社会課題を把握、リスト化して絞り込むため、SDGs、ISO26001、GRI、MSCI、SASB、グローバルリスク報告書等のガイドラインから自社に関わる課題を抽出。中期経営計画MEX23と整合をとりつつ、10~20年後の先を見通した将来にありたい姿及び社会から期待される項目や自社の課題として33項目を候補として抽出した。

STEP 2

重要度の分析と特定

33項目の課題候補から重要度を分析するため、ステークホルダー(投資家、お客様、お取引先様、社外取締役)とマクセルグループの役員と社員を対象としてアンケートやヒアリングを行い、重要度の高い項目をさらに絞り込んだ。

STEP 3

ステークホルダー視点の評価

ステークホルダーについては投資家、専門家、有識者の意見をフィードバックし、当社にとって重要な項目を客観的に評価した。

STEP 4

経営レベルでの重要度の選定
とアクションプランの決定

STEP1からSTEP3を通じて33項目からステークホルダーと自社ともに重要項目である14項目を選定した。さらに取締役との協議を通じて追加・統合・削除を進め、最終的に7項目にまとめた。また同時に課題解決のために必要なアクションプランを検討し20プランの内容も決定した。

STEP 5

社内承認

取締役会でこの7項目と20のアクションプランを承認し、マクセルの重要課題として決定した。

今後の方針

・KPI化と目標設定
・経営への実践、社内浸透

ステークホルダーとの対話、
情報開示

マテリアリティ

マクセルは7つのマテリアリティに対し、リスクや機会も踏まえた20のアクションプランを定めました。今後は各アクションプランにおける目標を設定し、着実に実行していくことで2030年にありたき姿の実現をめざしていきます。

Materiality 1 独創技術によるイノベーション創出

- 新たな価値を生み出す独創技術の進化
- 効率的なR&Dのためのマーケティングの強化
- 新事業を生み出すためのパートナーシップの強化

1



Materiality 2 成長事業を通じた社会課題の解決

- 5G / IoT 関連ビジネスを通じた、高度情報社会への貢献
- ヘルスケア関連ビジネスを通じた、先進医療や健康分野での貢献
- モビリティ関連ビジネスを通じた、高信頼性センシングによる安心・安全な社会への貢献

2



Materiality 3 価値を生み出す人・組織づくり

- 人を活かすマネジメントの強化(人財戦略構築、適材適所・タレントマネジメントの推進)
- 0から1をつくる、プロアクティブな人財を創出する人財育成・評価の仕組みの構築
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進(多様な人財活用と異なる価値観の受容)
- 業務プロセス標準化による生産性向上と技能継承の推進

3



Materiality 4 顧客価値の最大化

- 顧客課題の先にある社会課題を解決するモノづくりへの変革
- 正道に基づいた品質と製品安全を最優先する仕組みの構築
- マクセルブランドのコアとなる製品・サービスの価値向上

4



Materiality 5 環境活動による経済価値の創出

- 環境技術・環境配慮型製品の強化
- 省資源・省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入促進

5



Materiality 6 事業ポートフォリオ経営の強化

- 市場成長・事業収益の2軸(ABC-XYZ管理)による、継続的な事業ポートフォリオ改善
- 市場の変化を先取りするポートフォリオ戦略の実行
- グローバル生産拠点の効率化の推進

6

Materiality 7 グループ・ガバナンスの強化

- グループ経営における実効的なガバナンスの構築
- グループシナジーを最大化するガバナンスの実践

7